

蘭州近況その5 2 (2016年12月～2017年1月)



雪の元旦－キャンパス。

雪の元旦－榆中

あわただしい期末作業

中国の大学は2学期制で、1学期は18週が普通です。今学期はいつもより早く始まったため、第18週は12月25日の週になりました。蘭州大学では重点科目と普通科目の2種類があり、重点科目は18週まで授業を行い、19週、20週の期末試験期間に試験を行います。普通科目は期末試験を行う場合、18週に授業の代わりに試験を行います。今学期の担当は1年の会話、2年の作文、3年の作文でしたが、どれが重点科目で、どれが普通科目なのか12月まで分かりませんでした。先学期はこれらの科目は皆普通科目でしたので、19週の金曜日に蘭州を離れることにして航空券を手配しました。ところが3年生の作文が重点科目に指定され、19週の火曜日、1月3日に期末試験が割り振られました。6日の早朝便に乗るには5日に榆中を発って市内で一泊する必要があります。さらに、蘭州大学では来学期教育局の検査を受けるため、様々な書類の点検や補充を実施することになりました。私も担当科目の教案、シラバス、期末試験分析表、総括書を提出しなければならず、試験の採点を終えたあと、これらの書類の作成で苦勞しました。すべての作業が終わったのは5日の午前中で、なんとか6日の飛行機に間に合いました。

深圳から香港へ入る

いつも日本へ戻る時、中国の諸都市を観光して戻るようにしています。今学期は暖かい南の香港へ行くことにしました。香港へはこれまで行く機会がありませんでした。それに最近自治をめぐるデモが頻発しているので、その雰囲気を見てみようと思いました。蘭州から直接香港へ行く便がありませんでしたので、蘭州から深圳へ行き、飛行場からバスで香港へ入ろうと思いました。

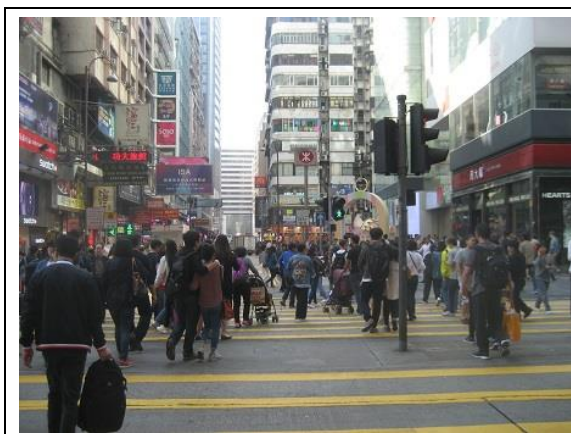


九龍より香港島を望む



SKY100より九龍を望む

6日の7時半に蘭州を発って、西安を経由して、13時に深圳へ着きました。飛行場から香港の九龍区の尖沙咀（ティムサーチョイ）へ行くバスに乗りました。運賃は130元でした。このまま1時間程度で着くものと思っていましたが、深圳の国境まで1時間かかりました。そこに大きな出入国管理局があり、入国審査を受けて、香港へ入りました。管理局でバスを乗り換えてしばらく行くと、また管理事務所があり、入国審査を受けました。審査のたびにトランクをバスから降ろし、また、バスも入れ替わるので、大分戸惑いました。管理事務所は香港の北の上水区にあり、そこから南の九龍区まで3時間近くもかかりました。尖沙咀からタクシーで九龍の東側にあるホテルへ向かいましたが、右に左にと曲がり、どこをどう走っているのか全く分かりませんでした。ホテルまで、30分、80元もかかりました。香港の第一印象は商店がびっしりと立ち並び、真っすぐに延びた道路が無いので、自分がどこにいるのか全く分かりません。



尖沙咀の繁華街 このような商店が並び、どこへ行っても同じように見える。

ワンタン麵の香港

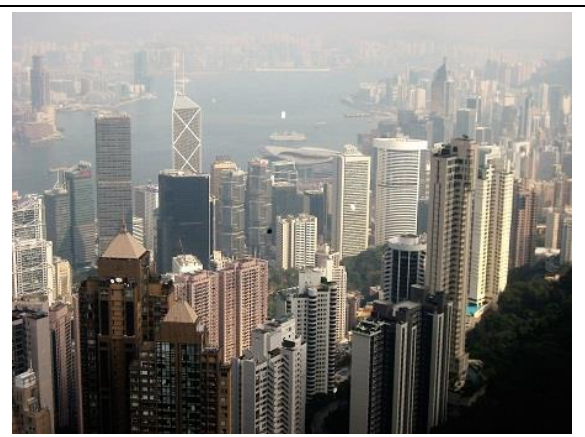
翌日は九龍地区の観光に出かけました。出かける前に、両替をすると、銀行のレートは1000 人民元が 1129 香港ドルでしたが、ホテルでは 1050 香港ドルでした。商店やタクシーで直接人民元が使えましたが、交換比率が 1 対 1 でさらに悪くなります。

ホテルの前にはバス停があり、香港の様々なところへ行かれます。バスは 2 階立てですが、料金は距離によって 7 ドルから 8 ドル、9 ドルと異なります。現金で払っているとすぐ小銭がなくなって困りました。

まず尖沙咀の南端、香港島へのフェリーが出るウォーターフロントへ行きました。ここから対岸の香港島の高層ビル群がよく見えます。そこまでは良かったのですが、それからどこへ行ってよいのか分からなくなりました。香港は狭いので尖沙咀の周りを歩けば、主な観光スポットに全て行かれると思っていましたが、スポットは歩くには遠く、どの方向のどのバスに乗ればよいのかまるで分かりませんでした。その日は SKY100 という超高層ビルの展望台と尖沙咀にある高級ホテル、ペニンシュラ、インターコンチなどを見てまわり、少し早めにホテルへ戻りました。



香港島を走るトラム（路面電車）



ピークから眺めた香港島

翌日はバスで香港島の中環（セントラル）へ行きました。ここでは乗り降り自由の観光バスの 1 日券を 450 ドルで買って、まずビクトリア・ピークに行きました。頂上へはピーク・トラムというイギリス時代のケーブルカーに乗って登ります。日曜日のせいかトラムの駅は観光客で混雑しており、ピークに上るのに 1 時間もかかりました。ただ、ピークは山の中腹にあるため、香港島の一部しか見えませんでした。ピークから降りて、昼食に香港名物海老ワンタン麵を食べたかったので、友人に紹介された店を探しましたが、これもどこにあるか分からず、手近な店へ入りました。それからまた観光バスに乗り、銅鑼湾、中環、上環と香港のビジネス街を見てまわりました。そして、港へ戻り、フェリーに乗って九龍へ渡りました。再び尖沙咀を歩いて、夕飯の店を探しました。

次の日、ゆっくりと朝飯を食べて、11 時ごろバスで香港国際空港へ向かいました。空港

はまだ新しく、その巨大さに驚きました。香港から上海へ向かい、上海で一泊して 10 日に日本へ戻りました。

土日に掛かったせいか、香港は観光客で混雑していました。人種は大陸の中国人、欧米人、日本人の順ではないかと思いました。日本人の団体ツアーはあまり見かけませんでした。商店街では貴金属、服飾、飲食店等がたくさんありましたが、それに加えて両替屋が多かったのはいかにも香港でした。

飲食店は写真付きのメニューがウィンドウに貼ってあり、分かり易くてありがたかったです。海老ワンタン麺はどこのレストランにもあり、値段は 38 ドル前後で一番安い料理でした。あっさりしたスープに細い麺が入り、海老ワンタンが 3 切れ入っているのが普通です。また、中華レストランに洋式のクラブハウス・サンドイッチがあるのも香港流です。物価は麺料理で 30～50 ドル前後ですから、大陸の 3、4 倍で日本に近い価格でした。

香港は高層ビルと商店街がたくさんあり、ツアーに入るか、自分の行きたいところをはっきりさせておかないとウロウロするだけで終わりそうです。今回で香港の概要が分かりましたから、機会があれば、今度はじっくり香港を味わってみたいです。

追：日本円が安かったので、香港へ行く前に蘭州で中国銀行へ行き、人民元を日本円に換えてもらおうとしました。数万円を日本円にしようとしたところ、銀行から最大 5 万円だと言われ、3700 元ほどしか換えてもらえませんでした。中国の外貨準備が急激に減少していると聞きましたが、何億や何千万円を引き出すわけではありません。アジアインフラ銀行の幹事国で、人民元を基軸通貨にしようとしているわりにはあまりにも情けない状況です。中国で稼いだ人民元は外国人では外へ持ち出すことができないのでしょうか。



翠華餐廳の海老ワンタン麺



池記の海老ワンタン麺

以上